

新米の季節が到来

白石産ササニシキ稲刈り・新米試食会



1_生産者の村上賢さん(左)と稲わらの結び方を教わる白石高校生(右) 2_ササニシキを棒に掛けて自然乾燥させます 3_炊き立ての新米ササニシキを堪能する参加者

9月21日、大平地区に植えられたササニシキが収穫の時期を迎え、稲刈り作業が行われました。本市では、平成元年に食味日本一に輝いた「白石産ササニシキ」を復活させブランド化に結びつけようと、現在市内の生産者9人が復活プロジェクトに取り組んでいます。この日の作業には、地域おこし協力隊の竹田祐博さんと白石高校生10人が参加し、稲刈りや棒掛けなどを行いました。

また10月3日には、小原温泉いづみやでササニシキの新米試食会が開催され、市内の旅館経営者や関係事業者など約40人が参加。参加者は「甘みを感じられて、さらっと食べられました。香りが立っているの、冷めてもおいしい」と話してくれました。

新米のササニシキは、おもしろい市場などで販売。11月24日には、同市場で白石高校生がササニシキの販売イベントを行います。

中学生の相互交流が実現！

オーストラリア・カウラ市の中学生が来白

10月6日から8日、オーストラリアのカウラ市にある聖ラファエル・カトリック・スクールの生徒12人が白石を訪れ、市内の中学校で学校体験やホームステイを行いました。同スクールは、平成29年度から本市中学生の「オーストラリア友好親善訪問団」を受け入れている学校で、今年初めて相互交流が実現しました。

生徒はホームステイや学校生活で、日本の生活習慣や食文化を体験し、オーストラリアとの違いに驚きや感動を受けた様子でした。



▲白石蔵王駅で記念撮影する訪問団と受入家族。2泊3日の中でかけがえのない思い出を作りました

沢端川をきれいに！

白石城お堀清掃



▲多くの企業がボランティア清掃に参加しています

9月28日、恒例の「白石城お堀清掃」を沢端川周辺で行いました。この活動は、毎年春と秋に沢端川などの土砂上げと維持補修のために「川干」に合わせて実施しています。この日は、市内の企業や団体・個人などのボランティア約400人が参加し、川底と川沿いのごみ拾いや周辺の雑草取りなどを行いました。清掃後は、協賛企業から清涼飲料やウェットティッシュのほか、豚汁や軽食などが振る舞われ、参加者の労をねぎらっていました。

ランナーたちが「激坂」を疾走！

第33回しろいし蔵王高原マラソン



9月15日、南蔵王野営場を発着点とする「第33回しろいし蔵王高原マラソン」を開催しました。全国屈指のアップダウンを誇る「激坂」に、全国から集まったランナー1,208人が挑戦。アップダウンや終盤の激坂に苦戦しながらも、沿道の声援を力に走り抜きました。

今大会では10km60歳以上男子、10km50歳以上女子で大会新記録が樹立されました。

【本市の出場選手で3位以内の入賞者】(敬称略)

- ・3km小学生男子(4年生以下) 1位 榊原元翔 3位 青木蒼真
- ・3km中学生女子1位 青木環奈、3位 釜谷沙良
- ・5km中学生男子2位 狩野陸人
- ・5km高校生～29歳女子3位 杉虹海
- ・10km50～59歳男子2位 菊地篤
- ・10km50歳以上女子3位 川井和栄
- ・10km高校生～29歳女子3位 菊地祥子
- ・20km高校生以上女子3位 佐藤真紀



1_3km小学生男子(4年生以下)1位の榊原くん 2_3km中学生女子1位の青木さん 3_晴天のもと、出場選手が勢いよくスタート！

パラリンピック公式種目を体験

白石中学校親子行事で「ボッチャ」

9月27日、白石中学校の親子行事としてパラリンピック公式種目「ボッチャ」が行われ、生徒と保護者約200人が体験し交流しました。

「ボッチャ」は、2チームに分かれて目標球にボールを投げ合い、目標球から一番近いボールのチームが得点するスポーツ。年齢や障がいの有無に関わらず、誰でも楽しめるスポーツとして親しまれています。参加した生徒は「簡単そうに思っていたが、狙って投げるのが難しかったです」と話していました。



▲障がい者の感覚を体験してもらおうと、パイプいすに座り利き手ではない手でボールを投げました